

4. AIS 機器の効果に関するアンケート結果

運輸安全委員会では、簡易 AIS[※]の設置が広く普及している沖縄県の漁船を対象として、県下漁業協同組合の協力を得て、簡易 AIS の使用状況、効果等に関するアンケート調査を実施しました。

調査内容としては、設置した AIS が役に立っているかといった項目のほか、AIS について、事故減少への寄与度合い、今後の改善点等についての調査票を作成し、漁協（37 組合、所属船舶の簡易 AIS 搭載船舶 717 隻）を通し、簡易 AIS 搭載船舶所有者計 378 人より回答（回収率 52.7%）をいただきましたので、その概要をご紹介します。

これらのアンケート結果から、見張りの補助として、漁船など小型船舶に **AIS を設置することが、衝突事故を防止すること**に有効であると考えられます。

※ 「簡易 AIS」とは、国際条約で一定の船舶（全ての旅客船と国際航海に従事する 300 トン以上の船舶及び国際航海に従事しない 500 トン以上の船舶）に対して搭載が義務付けられた AIS より出力が小さく、また、送受信する情報項目を船名、船位、速力、針路、船種等に限定した装置をいう。

AIS 設置によって感じていること

AIS 設置によって「事故が減ったと思うか」との問いに対しては、「減った」が 156 人 (41.3%)、次いで「減った気がする」が 118 人 (31.2%) であり、合わせて約 7 割を占めています。(図 6 参照)

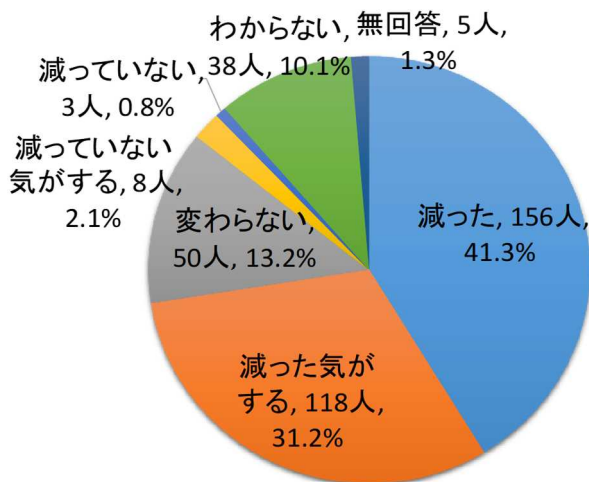


図 6 「事故が減ったと思うか」の回答

AIS 設置によって「ひやりとすることが減ったと思うか」との問いに対しては、「減った」が 202 人 (53.4%)、次いで「減った気がする」が 75 人 (19.8%) であり、合わせて約 7 割を占めています。(図 7 参照)

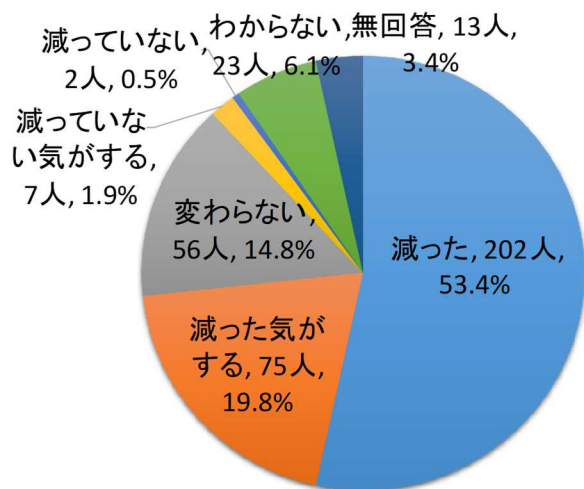


図 7 「ひやりとすることが減ったと思うか」の回答

ひやりとしたときの具体例

- ・霧の日など視界が悪いとき
- ・レーダーに映りにくい船等があったとき
- ・相互の意思疎通が不足して異常接近となったとき
- ・いつの間にか、相手船との距離がかなり近づいていたとき
- ・仮眠しているときに大型船がこちらに気付かず、レーダーのアラームが鳴ったので慌てて避航した
- ・AIS をつけていない船が多々ある
- ・AIS 設置により相手船の動きがわかるので、他船が必要以上に近づいてくるとき

AISが「役に立っていると思うか」との問いに対しては、「役に立っている」が305人(80.7%)、次いで「少しは役に立っている」が50人(13.2%)であり、合わせて約9割を占めています。(図8参照)

また、AIS設置によって「具体的に役立っていることは何か」(複数回答)との問いに対しては、「他船の位置などを知ること」が306人と最も多く、次いで「自船の位置などを知らせること」が247人などとなっています。(図9参照)

さらに、AISが役に立っていると思う具体例については、「他船の針路速度がわかる」、「レーダーよりも先に表示される」、「レーダーに映らない船も認識できる」、「大型船が自船を避けてくれるようになった」等でした。

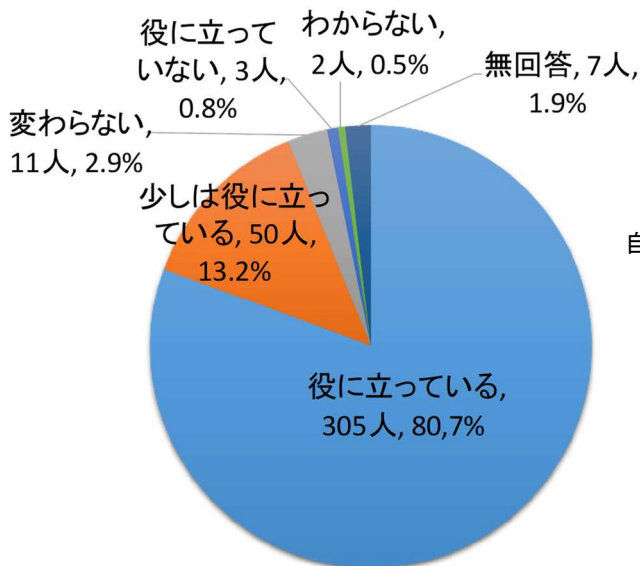


図8 AISは役に立っていると思うか

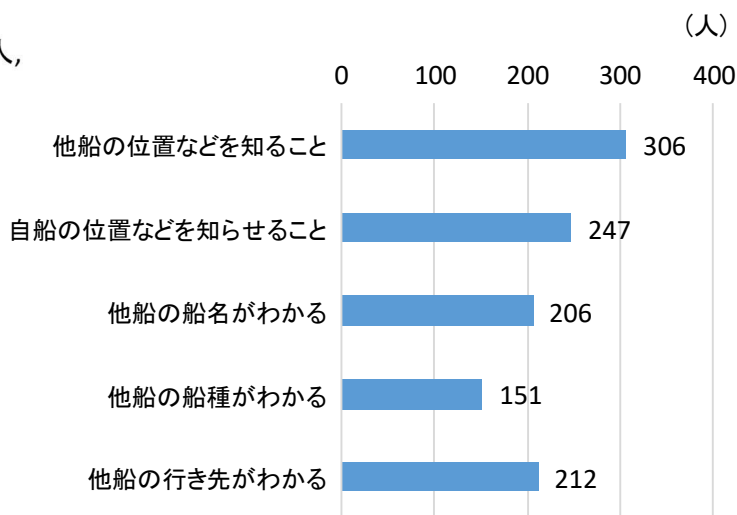


図9 AISが具体的に役立っていることは何か

「他船が自船に接近して、危険を感じることはなくなったか」との問いに対しては、「なくなった」が97人(25.7%)、「少なくなった」が191人(50.5%)であり、合わせて約8割を占めています。(図10参照)

また、「他船がどんな船かを知ることが、分かりやすくなったか」との問いに対しては、「分かりやすくなった」が251人(66.4%)、次いで「少し分かりやすくなった」が47人(12.4%)であり、合わせて約8割を占めています。(図11参照)

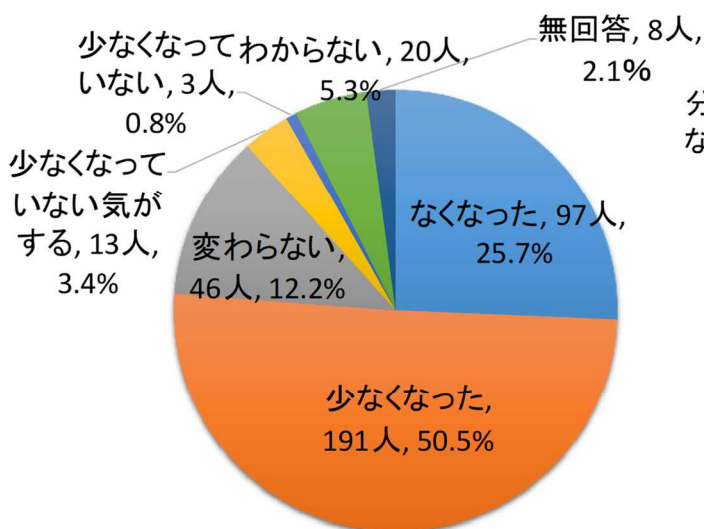


図10 危険を感じることはなくなったか

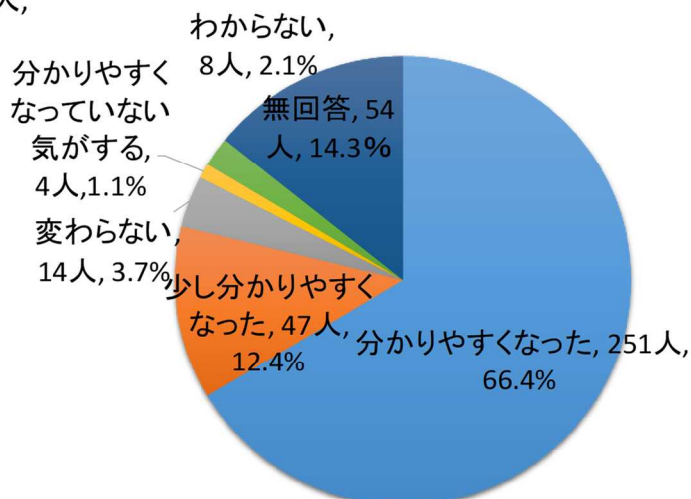


図11 他船がどんな船かを知ることが分かりやすくなったか